



早いものでもうすぐ7月です。期末考査が終わると、進路関係の予定が目白押しです。予定は以前学年懇談会で進路指導部より配布した「就職・進学資料」に載せていますが、ここでは改めて、7月、8月分の進路指導部関係予定を紹介します。

7/ 1 (火)	【就】 求人票受理開始	8/ 1 (金)	【就】 調査書作成締め切り
	【就】 企業による学校訪問開始	8/ 7 (木)	【就】 「就職志望申込書」提出開始
7/ 3 (木)	【就】 LHR 統一応募用紙について	8/12 (火)	【就】 「就職志望申込書」提出〆切
	【就】 一斉面接指導開始	8/19 (火)	・ 第1回推薦会議
7/12 (土)	【進】 進研模試 (記述・希望者)	8/21 (木)	・ 第1回推薦会議選考結果発表
7/14 (月)	・ 三者面談開始 (進路希望確認)	8/25 (月)	・ 第2回「就職志望申込書」〆切
7/22 (火)	・ 夏季休業中課外開始	8/26 (火)	・ 第2回推薦会議
7/下旬	【就】 就職準備セミナー (希望者)	8/26 (木)	・ 第2回推薦会議選考結果発表

1. 就職志望者へ

いよいよ「一斉面接指導」が始まります。全校の先生方が面接官です。しっかりと準備をしましょう。

(1) 『面接試験合格の手引き』

「紙上模擬面接」(p.18から)に取り組んでみましょう。この中に「1分間で自己PRをしてください。」という質問があります。あなたのPRポイントは何でしょうか。「進路ノート」に「自己PR」のページを作り、パターンを変えて何種類か書いてみましょう。

(2) 進路指導室で調べよう

昨年の求人票から自分が受験したい会社を選んでみましょう。その会社の報告書から、過去の面接質問を調べ、「進路ノート」に記入します。先輩が「こんな風に準備したらよい」とアドバイスしてくれていたら、しっかりメモをしましょう。

2. 進学志望者へ

各学校の今年の入試要項が、次々に発表されています。第1志望の学校の「入試区分」「試験タイプ」「試験日程」を調べましょう。

(1) 入試の種類 (時期)

大きく分けて8～9月に行われる「AO入試」、10～11月に行われる「推薦入試」、1～2月に行われる「一般入試」の3段階あります。

「AO入試」と「推薦入試」は専願制ですので、1校受験したら結果がわかるまで他の学校の受験は原則できないと思ってください。それに対して、「一般入試」は、何校でも受験できます。

(2) 受験スケジュールを立てましょう

入試は不合格の可能性もあります。その場合、次はどの学校を受験するか、計画を立てておく必要があります。試験科目・内容を考慮して、スケジュールを考えておきましょう。

現在3年生は**風紀検査**を行っています。放課後に行っているこの風紀検査は実は**面接の練習**を兼ねています。「きをつけ」の姿勢、お辞儀の仕方、明るい受け答えから、椅子への座り方、立ち方まで、一つ一つ個別に確認し、練習しています。面接練習は、就職志望者にも、進学志望者にも、必要です。全ての機会をとらえて、進路実現に向けた練習をしましょう。





第3学年進路便り 第3号 ～その2～

～ 進学準備特集 ～

進学希望者に向けて、予約奨学生の受付をしています。第1次の締め切りが近付いていますので、確認の案内をさせていただきます。進学に向けたマネープランについては、先に学年懇談会で講演会を行いました。その後進路変更を考えたご家庭もあるかもしれません。そこで、基本的なことをまとめてみました。詳しくは、生徒を通して学校で調べたり、相談したりしてください。

1. 予約奨学生の受付をしています

四年制大学・短期大学・専門学校への進学希望者に対し、「日本学生支援機構（以下 JASSO）」の予約奨学金の募集案内を行い、その申請書類提出締め切りが6月20日となっています。提出しなければならないものは以下の3点です。

①確認書兼個人情報取り扱いに関する同意書（P39）

*本人欄、親権者欄はそれぞれ**自署**してください。

②スカラネット入力下書き用紙（冊子中央部分を抜き出す P20 と P21 の間）

*基本的には生徒が記入します。（ただし収入などについては保護者の指示が必要。）

③保護者の「平成26年度所得証明書」

*保護者無収入の場合でも「収入0円」の証明として必要です。

④特別控除の証明書類（**該当者のみ** 詳しくは P20）

*第二種奨学金の場合、貸与金額の選択が可能です。この際、進学先においてどのくらいの学費が必要かを調べた上で決定してください。

*なお提出書類は必ず、生徒から直接 **片山へ手渡し** にて提出してください。その場で書類確認をします。

2. 入学金の準備について

進学には、4月に「入学金、前期授業料、施設・設備費、教科書代」など、一度に支払うお金が必要です。その際、国の教育ローン（教育一般貸付）を利用する方法もあります。在学期間中は、元金を据え置いて利息のみの支払いとすることも可能なため、ゆとりを持った返済が可能です。詳しくは「国の教育ローン」でお調べください。

上記奨学金はあくまで**入学後の貸与**ですので、高校在学中に貸与が始まることはありません。従って、入学時に必要な費用は、奨学金以外に準備する必要があります。

3. 各学校の奨学制度について

進学先の学校により、さまざまな条件で学制度を設けていることがあります。たとえば、「**特待生試験**」「**受験料免除**」「**入学金免除**」「**授業料免除**」（一部免除もあります）などの制度があります。条件としては、家庭の経済状況以外にも、現在持っている検定、評定平均点、出欠状況等により減免される学校もあります。試験で「特待生」試験がある学校は、是非挑戦することを考えてみませんか？

志望校に奨学制度や減免制度がある場合は、賢く利用するためにも、しっかりと進路指導室で資料を調べましょう。